

「第2回米朝首脳会談をどう見るか——

東アジアの平和のためにわれわれに何ができるか」

- 日時：2019年3月16日（土曜）14:00-17:00
- 会場：東京都文京区の【文京アカデミー向丘】
- テーマ：「第2回米朝首脳会談をどう見るか——東アジアの平和のためにわれわれに何ができるか」
- 対談：五味洋治氏（東京新聞論説委員）、君島東彦氏（立命館大学教授）
- 主催：非暴力平和隊/日本（NPJ）

＜非暴力平和隊/日本＞（NPJ）が2017年から行ってきた＜憲法対話＞に続くものです。「間近に迫った安倍改憲発議」を前提に、改憲の是非等を話し合ってきました。しかし、2019年春の統一地方選挙、天皇の代替わり等の政治日程や与党内にもある9条改憲に対する慎重論から、当面改憲は無くなったともいわれるようになっていきます。

他方、わたしたち＜非暴力平和隊/日本＞にとっていま喫緊の課題は、米朝首脳会談や極端に悪化している日韓関係などに対して「東アジアの安全/平和」をどのように進めていくかを考え論ずることだとする見方もあります。

この集会は、第2回米朝首脳会談後の東アジア情勢を展望して「東アジアの平和のためにわれわれに何ができるか」につきジャーナリスト/憲法学研究者の対談と、集会参加者のみなさまとのあいだで行われたものです。それぞれの場で「東アジアの平和のためにわれわれに何ができるか」の分かち合いの参考としていただければ幸いです。

-
1. 五味洋治氏 レジメ
 2. 君島東彦氏 レジメ
 3. 討論集会 記録

2 回目の米朝首脳会談をどうみるかー発想を転換し、平和へ協力を

1、2月27,28日の米朝首脳会談をどう評価するか責任論を越えて

ビッグディールか、スモールディールか

予想外の決裂コーエン公聴会の影響北朝鮮でミサイル基地の動き

思惑は違うが、関係国が望むのは共通「朝鮮半島の平和と安定」

韓国、「意味のある進展」「重要な成果」(文在寅大統領)

中国、「問題解決の重要な一歩だ」、「双方が顔を合わせて率直に意見交換したこと自体が進展

だ」「始めから高すぎるハードルを設定してはいけない」(王毅・中国外相)。

日本「**安易な譲歩を行わず、同時に建設的な議論を続け、北朝鮮の具体的な行動を促していくトランプ氏の決断を全面的に支持する**」(安倍晋三首相)

日本の中には、朝鮮半島の緊張が、日本に利するとの根強い考え方

「朝鮮戦争の休戦や国際的な緊張緩和が、日本における米軍のプレゼンスにかかわる日本人の世論にどのような影響をもたらすか憂慮している」

「日本の一部からは、日本の領土から米軍の撤退を求める圧力が高まるであろうが、こうしたことは不幸なことであり、日本の安全保障にとって米軍が引き続き駐留することは絶対に必要なものと確信している」(1953年4月20日、昭和天皇『昭和天皇の戦後日本』(豊下楢彦著、岩波書店))この年の3月5日にソ連のスターリンが死去し、「朝鮮戦争休戦」の機運。

2、朝鮮戦争が、核危機をもたらせた発想を変え、歴史的視点を持つ必要性

そもそも朝鮮戦争とは。1950年から53年まで朝鮮半島全域で朝鮮戦争展開。この戦争で、民間人を含め3-500万人が亡くなり、南北に別れてすむ「離散家族」1000万人生む。戦争中に日本から送られたものは、兵士、爆弾、輸送用トラック、鉄条網、コンクリート、輸血用血液、朝鮮半島で流された血によって戦後経済の再生を果たす。

トヨタは倒産寸前から復活

18年に入って事態は進展。南北、米朝、米中首脳会談が相次ぐ。

北朝鮮の核開発の底流には、朝鮮戦争を終わらせる問題も深くからんでいる。

北朝鮮が核兵器にこだわり、50年間にわたって秘密裡に開発を続けてきたのは、この戦争でアメリカが原爆の使用を検討したことが引き金に。やはり朝鮮戦争が終わらない限り、朝鮮半島の分断と対立は解消されない。

一方北朝鮮への根強い不信、独裁政権、人権弾圧、自由がないなど

3、朝鮮戦争終戦で何がおきるか過度に恐れる必要はない

「今回の首脳会談では、終戦宣言と相互連絡事務所設置で妥結直前だった」(韓国の康京和外相)。終戦宣言、戦闘行為を再開しないというのが目的であり、おおまかな理念を盛り込んだ政治的宣言。たとえ政治的な宣言だとしても、米国は韓国との軍事演習がしにくくなる。大規模軍事演習は実際にほぼ中断されている。

朝鮮戦争で組織された米韓軍を中'むとした朝鮮国連軍も、存在があやうくなる。朝鮮国連軍は、日本に7つの後方基地を持っており、朝鮮有事の際にはフル活用。日本は常に朝鮮有事の後方基地。

在韓米軍の縮小、撤退が進めば、在日米軍にも影響が出るかも知れないと'む配。日本政府は、沖縄の普天間基地を移転させるため、代替基地の建設。新たな基地建設を実現し、どんな事態が来ても、在日米軍をつなぎ止める。海兵隊の行き場が沖縄しかない。

4、米軍基地の縮小は、世界的に避けられない流れ中国との共存

トランプは16年秋に当選した時から、シリアやアフガンからの米軍撤退を公約に。トランプは2ページ目の「4 米軍基地の縮小は2018年」在韓米軍駐留に35億ドル(約3740億)も使う理由はあるのか」と言って撤退を主張した。

海外基地の総数は517で、前回比で70減。ドイツでは2年余りの間で49基地を削減。過去10年間で見れば、海外基地は07年度の823基地から約37%減少。「対テロ」戦争の戦費調達に伴う基地維持費の削減や各国の主権意識の高まりなどが背景に。(2017年度版米国防省「基地構造報告」)これに対して日本では、過去10年間、米軍の基地数で大きな変化なし。

フィリピンの先例は参考になる。1951年米国と相互防衛条約を締結して米軍駐留に合意。86年市民革命以後、反米の市民運動が活発になり、92年1月にフィリピン議会は米軍撤収決定。98年の訪問部隊地位協定に加え、2014年には防衛協力強化協定を締結。憲法違反訴訟も却下される

ドゥテルテ大統領は対テロ作戦や災害救助などで、ASEAN各国と防衛協力を維持する一方、2018年10月には中国とASEANによる初の合同軍事演習に参加。中国と対立するのではなく、共存していくしかない。

5、最後に

日本が積極的に朝鮮半島の平和と安定に寄与することは、平和国家としてのイメージを確立するためだけでなく、韓国との間の歴史問題を緩和することにもつながる。首脳会談の会場を提供する。朝鮮戦争の終結宣言の文案を提案する。南北の間の非武装地帯の開発に参加するなど、さまざまな努力が望まれる。

憲法 9 条の観点から米朝首脳会談を見る

—東アジアの分断構造から水平的ネットワークへ—

1 9 条を擁護するとはどういうことか？

- ・日本国憲法の平和主義(前文+9 条)と東アジア秩序・世界秩序はつねにセットであり、憲法 9 条を考えるとときにはつねに東アジア秩序・世界秩序を考えなければならない。憲法 9 条はどのような東アジア秩序・世界秩序を前提としているのか。国連の集団安全保障あるいは地域的な集団安全保障機構が機能することを前提に、9 条がある。東アジアにそのような安全保障機構はあるか。もしそれがないのであれば、それをつくらねばならない。それが憲法 9 条の前提であり、それが 9 条をまもるということである。
- ・憲法 9 条の変容(日本再軍備。自衛権の容認)をもたらしたものとしての朝鮮戦争。
- ・われわれ日本の市民は米朝首脳会談をシニカルに傍観するだけでよいのか。
- ・「マルチトラック外交」(Multi-Track Diplomacy)の考え方。われわれ市民も外交主体である。日本国憲法前文は、日本の市民が外交主体として活動することを要請している。
- ・2002 年に Nonviolent PeaceForce(非暴力平和隊、NP)をつくったとき、朝鮮半島の軍事的緊張の問題は NP の関心事の 1 つであった。17 年後のいま、NP として朝鮮半島問題をどう見るか。

2 「東アジア分断構造」—白永瑞(ペク・ヨンソ)のとらえ方

- a. 3 つの「大分断」の歴史:帝国、植民地、冷戦の重畳。
 - ・中華帝国の華夷秩序・朝貢体制
 - ・日本帝国の植民地支配・大東亜共栄圏
 - ・<パックス・アメリカーナと下請けの帝国としての日本>対<革命後の中国>
- b. 東アジアの葛藤・矛盾を集中的に体現している「核心現場」での「小分断」
 - ・琉球併合以来の沖縄。日本帝国の「捨て石」、パックス・アメリカーナにおける米軍基地、中国の第一列島線。
 - ・朝鮮半島。かつて日清、日露の対立の場、日本帝国の植民地、冷戦の最前線。現在は、米国・日本にとつても、中国にとつても、「緩衝地帯」。

・中台兩岸関係。

3 2018.6.12 米朝首脳会談の意味

- a. 自永瑞の東アジア平和構想。小分断の克服を契機として東アジア全体の平和をめざすダイナミックなプロセスをつくりだす。朝鮮半島の緊張緩和・分断克服も東アジア全体の平和に連動する。沖縄の問題も、東アジア全体の平和の問題と連動している(君島)。
- b. 2018.6.12 米朝首脳会談をもたらしたもの。1980年代以来の韓国の民主化運動、朝鮮半島の平和的統一をめざす運動、2017年の文在寅大統領選出。2011年末、北朝鮮における金正恩の最高指導者就任、北朝鮮国内改革、米朝交渉への志向。2017年、トランプ大統領就任。トランプの unorthodox な外交政策。南北朝鮮の関係改善から米朝交渉へ。
- c. 朝鮮半島の軍事的対峙からの転換。南北の軍事的対立の緊張緩和は着実に進行している。「『38度線』が対馬海峡に南下した?」(昔の「釜山赤旗論」の現代版?)。朝鮮人民軍と韓国軍はこれからどうするのか。最近の韓国海軍と海上自衛隊の葛藤の背景・文脈は?
- d. Orthodox な軍事的思考をする米軍・国防総省側の巻き返しは?。米中対決が、朝鮮半島問題にどのように影響するか。
- e. 第2回米朝首脳会談の論点。北朝鮮の「段階的非核化」の容認と制裁の緩和? 2019年2月にトランプ政権が内政の困難を外交で打開する必要性。

4 第2回米朝首脳会談をどう見るか

5 「東アジアの平和」への「知的資源」

- a. 日本国憲法の平和主義。日本の軍事化への抑制。国際協調主義。
- b. 沖縄の思想。川満信一「琉球共和社会憲法 C 私(試)案」(1981年)、岡本恵徳「水平軸の発想」(1970年)等。
- c. 自永瑞の「複合国家論」。中間段階として南北朝鮮の国家連合等をも含みつつ平和的・漸進的・段階的なプロセスとして朝鮮半島統一を構想する。
- d. Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict(GPPAC) Northeast Asia。モンゴル、極東ロシア、中国、台湾、香港、北朝鮮、韓国、日本のNGOの代表者が定期的に会合し、東北アジアの平和について議論してきた。「ウランバート

ル・プロセス」。

- e. 国家統合・地域統合のアプローチよりも、東アジアの民衆の越境的・脱中心的なネットワーク形成を重視する。東アジアが垂直的なヒエラルキー構造になるリスク(過去はそうだった)を警戒。予防して、水平的なネットワークをめざす。小分断の克服のインパクトを水平的に波及させる。東アジアの越境的な、批判的知識人、平和研究者、市民等が横につながる必要性。その萌芽はある。

参考文献

岡本恵徳『現代沖縄の文学と思想』沖縄タイムス社、1981年

孫歌。自永瑞。陳光興編『ポスト(東アジア)』作品社、2006年

陳光興著/丸川哲史訳『脱帝国——方法としてのアジア』以文社、2011年

川満信一・仲里効編『琉球共和社会憲法の潜勢力……群島・アジア・越境の思想』未末社、2014年

孫歌「琉球共和社会の住民として」『越境広場』創刊0号、2015年

日本平和学会編『東アジアの平和の再創造[平和研究第46号]』早稲田大学出版部、2016年

白永瑞著/趙慶喜監訳/中島隆博解説『共生への道と核心現場——実践課題としての東アジア』法政大学出版局、2016年

酒井直樹『ひきこもりの国民主義』岩波書店、2017年

Louise Dialond and John McDondd, Multi-track Diplomacy: A Systems Approach to Peace, Third Edition (West Hartford, Connecticut,) Kumarian Press, 1996

3. 討論集会 記録

第 1 部

◆ 君島東彦



今日の企画の趣旨を説明し分担を紹介します。

非暴力平和隊・日本は憲法九条の改正論にも関心をもっていますが、東アジアの中の日本ですから、東アジアの問題と切り離された九条論はないと思っています。ですから私は九条の観点から米朝首脳会談に移りますが、当然いま東アジアで大きな変化、いろいろな意味で大きな変化をしている状況です。それを知らずに九条擁護論はないと思います。今東アジアで何が起きているのかを正確に理解することが九条擁護の前提です。東アジアを知らずに九条擁護はありえない。

安倍さんは、北朝鮮が脅威だから、あるいは中国が脅威だから、自衛隊を憲法に明記するために、九条改正が必要だと

言っています。北朝鮮脅威論であり、中国脅威論です。それに対して我々はどう反論するのか。それがなかったら九条擁護論は説得力をもちません。

北朝鮮脅威論や中国脅威論をぶつけれられたときに、九条を変えなくてよいという人は何と答えるのか。その答えがない九条擁護論は力になりません。東アジアがどうなっているかを正確に理解し、これからどうなっていくかを見すえたくうえで、憲法の平和主義には意味があることを説明しなければ、力になりません。そうした意味での今日の企画です。

2月下旬に第2回米朝首脳会談がありました。その結果をどう見るか、なかなか簡単ではないが、当然評価する必要があるし、さらに昨年6月の最初の米朝首脳会談をどう見るかもすごく重要です。

私は日本における議論はきわめて傍観者的でシニカルで、むしろ朝鮮半島の緊張緩和は日本に対してマイナスだという議論さえある。東アジアのなかの日本としてはそれではダメだと思います。

この問題でお話を聞きたいと思う第一の人は五味さんです。五味さんは東京新聞の論説委員です。私は今から5年くらい前に立命館大学からの学外研究でワシントン D.C.のアメリカン大学で1年間過ごしましたが、そのときに五味さんは、フルブライトのジャーナリストの制度で

ジョージタウン大学におられて、知り合いになりました。

五味さんは北朝鮮問題をきちんとフォローされておられ、最近『朝鮮戦争は、なぜ終わらないのか』（創元社：2017/12/20）という本を書かれていて、いろいろな機会に発信されています。

五味さんは、東京新聞の北京支局長をなさっていて、北京から北朝鮮を見ておられました。日本のジャーナリストの中で、中国から北朝鮮問題を見るときに、一番正確な情報をお持ちなのが五味さんだと思います。

それでは五味さんよろしくお願い致します。

◆ 五味洋治氏（東京新聞論説委員）



2回目の米朝首脳会談をどうみるか
— 発想を転換し、平和へ協力を

1 2月27日、28日の米朝首脳会談
をどう評価するか（責任論を越えて）

世の中が中国・韓国・北朝鮮に対する批判一色になることはとても危険で、どこかで違うことを言う人がいなければいけないと思います。

2月27日、28日の米朝首脳会談が決裂したこと（合意なしで終わったこと）を、個人的にはとてもがっかりしています。首脳会談というものは、うまくいなくても、原則的なことぐらいでは合意するのが普通です。

2018年6月12日にシンガポールで行われた米朝首脳会談では、以下の4項目の合意がなされました。

①両国は、平和と反映を求める両国国民の希望に基づき、新たな米朝関係の構築に取り組む。

②両国は、朝鮮半島での恒久的で安定的な平和体制の構築に向け、協力する。

③北朝鮮は、朝鮮半島の完全な非核化に向け取り組む。

④両国は、朝鮮戦争の捕虜・行方不明兵の遺骨回収、既に身元が判明している遺体の帰還に取り組む。

今回は、それにプラスアルファの合意がなされるだろうと予想して、私も社説を準備していました。現地に来ていた約3000人の外国人記者たちも、記事を大幅に書き換えることになり、がっかりしたことでしょう。

しかし、首脳会談が大失敗で無意味だ

ったというのは言いすぎです。かつて、レイキャビックの米ソ首脳会談で、ゴルバチョフとブッシュが、核戦力削減について合意の直前まで行って決裂したことがありましたが、その次の会談では合意し冷戦が終わりました。トップ同士の話し合いで相違点を理解したことは重要です。

トランプさんの事前調整のやり方がまずいという人もいますが、私は、これまで20年以上米朝首脳会談を見てきましたが、下の人が調整しても、トップがあればダメこれがダメと言ってきりがありません。事前調整なしでトップ会談を行うというのも一つの選択肢です。トランプさんを責めるよりも次回に期待したいと思います。

北朝鮮は、昨夜、平壤で、再び核開発やミサイル開発をやるかもしれないという記者会見をして、今後の首脳会談が見通せなくなりました。だからこそ、日本は、もっと関心をもち、日本としてやるべきことがあるのではないかと思います。

今回の会談について韓国のムン・ジェイン大統領は、「意味のある進展」「重要な成果」と評価しています。二人の首脳が会って違いを確認したことが次のステップになると言っています。中国の王毅外相は「問題解決への重要な一歩だ」「双方が顔を合わせて率直に意見交換したこ

と自体が進展だ」「初めから高すぎるハードルを設定してはいけない」と言っています。

ところが日本の安倍首相は、「安易な譲歩を行わず、同時に建設的な議論を続け、北朝鮮の具体的な行動を促していくトランプ氏の決断を全面的に支持する」と言いました。決裂したほうがよかったかのような発言です。

日本人の中には、朝鮮半島に緊張があった方（隣でけんかしていた方）が、日本に火の粉がとんでこなくてよいという考え方があります。

朝鮮半島に緊張があっても、中国が軍事力を拡大しても、在日米軍さえいれば日本は安全だと思っているのです。隣の家の人が向こうの人と仲良くなったら、向こうの人と組んで攻撃してくるのではないかと心配しているのです。

1953年4月20日、昭和天皇も次のようなことを言ったということが、豊下櫛彦著の『昭和天皇の戦後日本』（岩波書店）に書かれています。

「朝鮮戦争の休戦や国際的な緊張緩和が、日本における米軍のプレゼンスにかかわる日本人の世論にどのような影響をもたらすか憂慮している」

「日本の一部からは、日本の領土から米軍の撤退を求める圧力が高まるであろうが、こうしたことは不幸なことであり、

日本の安全保障にとって米軍が引き続き駐留することは絶対に必要なものと確信している」

実は、今、それに似た状態が起きています。朝鮮戦争が終わって、アメリカと北朝鮮が国交正常化したら、幅4キロの軍事境界線（38度線）がなくなり、南北が交流し始め、ひとつの国になる努力が始まります。そうになると在韓米軍は不要になり、完全に撤退はしないにしても、かなりの部分が日本に移されます。そうすると、38度線が対馬に来てしまい、日本が最前線になって緊張関係が生ずる、だから軍事力を増強しなければならない、それが日本の保守層の人の考え方です。ひょっとして、その考え方がストーンと落ちますか。私も昔はそう思っていました。

（会場からの質問……朝鮮戦争が休戦になると特需景気がなくなると恐れられたのではないか。）

それもありますよね。この中に朝鮮戦争のころの記憶をもっている方がいらっしゃいますか。昨年、江戸川区で話をしたときに、道で金属を拾って売ったという人がいました。日本で、朝鮮戦争のための弾薬や大砲を作っていました。朝鮮戦争は日本とは無関係で、隣の国で同じ民族同士が戦った戦争だと思っているかもしれませんが、実は違います。

今回、アメリカと北朝鮮、韓国と中国は、核問題を解決しながら、朝鮮半島に平和を生みだし、北東アジアに平和と安定をもたらそうと努力しています。ところが日本の保守層の人はそれを望んでいません。

韓国の新聞を見ると、今回の2月の首脳会談の直前に「日本は最悪のシナリオに苦しんでいる」という記事が出ています。北朝鮮とアメリカが国交正常化をして（突然にではないですが互いに連絡事務所を置いて人的交流が始まり仲良くなると）、日本だけ取り残されてしまうということです。日本は、拉致、核、ミサイルの3つの問題が解決しないと国交正常化しないと言っていますが、拉致問題の解決はなかなか困難な状況なので、取り残されてしまいます。実は、日本も、水面下では、北朝鮮との国交正常化に向けて準備を始めていると言われていました。いくら難しくてもアメリカが国交正常化してしまうとついていかざるをえないということです。

それは、1970年代に中国とアメリカが国交正常化したときとよく似ています。当時、日本は台湾と関係が深く、自民党の中にも新台派と呼ばれる台湾に近い人がたくさんいて、中国とは敵対していました。ところが、びっくりすることに、アメリカのキッシンジャーが水面下で、突然中国に行って、国交正常化に向けた動きを始めました。日本は、これは

大変だということで、アメリカより前に国交正常化をしないと不都合なことが起きるし、中国から見放されるかもしれないということで、あっという間に、1973年に田中角栄が中国との国交正常化をしました。アメリカは5年くらい遅れて国交正常化しました。

今回も、日本は北朝鮮との国交正常化に向けての準備を始めているのではないかとされていました。

2 朝鮮戦争がもたらした核危機 (発想を変え歴史的視点をもつ必要性)

朝鮮戦争は1950年から53年まで行われ、現在、休戦中です。この戦争で、民間人も含めて3~500万人が亡くなり、南北に別れて住む「離散家族」1000万人を生みました。

他の国は、朝鮮戦争を終わらせようと努力していますが、日本は関係ないどころか、一種の戦場だったのです。もちろん、日本に弾が飛んできたわけでもありませんし、人が死んだわけでもありません。しかし、戦争中に日本から朝鮮半島に送られたものは、米兵、爆弾、輸送用トラック、鉄条網、コンクリート、輸血用血液など。朝鮮戦争半島で流された血によって、日本は戦後経済の再生を果たしました。

例えば、トヨタは軍用トラックを10

00台以上、朝鮮半島に送りました。トヨタは、1950年以前は、倒産寸前でした。組合活動が激しくなって、社長が交代し、給料も遅配でした。私が以前名古屋でこの話をしたときに、トヨタの社員だった人が、確かに会社がつぶれそうで、別の就職先を探したと言っていました。ところが、朝鮮戦争が始まったら、突然1000台以上軍用トラックの注文が来て、トヨタは息を吹き返します。そのトラックに米兵が乗って戦争に行ったわけです。

弾薬や武器も日本からたくさん送りました。当時最も多く武器を送ったのは小松製作所で、大阪の旧日本軍の軍需工場を買収して、迫撃砲弾32万5千発も朝鮮半島に送りました。

このように朝鮮戦争は、日本が出撃基地となったのです。日本全国にいた米兵が、国鉄と、日本の輸送船（日本人が船員）で朝鮮半島に行きました。私は、『朝鮮戦争は、なぜ終わらないのか』という本を書いたときに、この船員さんの話を聞きました。人だけではないですよと言われました。米兵はトーストを食べたがるのですが、当時の朝鮮半島にパンはないので、下関でパンを大量に焼いて釜山に持って行って、兵士に分けたそうです。

負傷した兵士への輸血用の血も、東京の新橋や東京駅の前で、献血をよびかけて、それを朝鮮半島にもっていきました。

そのくらい日本は、この戦争に徹底的に関与しました。日本がバックにいて行った戦争です。

その戦争について、正式に終了したら困る、日本にとって不利になるというのは、冒涇だと思います。日本は、この戦争を終わらせるために積極的に努力しなければなりません。ムン・ジェインさんは、日本に対して歴史問題で厳しいところがありますが、日本政府は、韓国が北朝鮮と和解して朝鮮戦争を終わらせようと努力していることに対して、そのことに賛同すると一言ぐらい言ってもいいと思います。官房長官の記者会見を見ても、そういうことを聞いたことは一度もありません。まして、安倍さんは、そのようなことは絶対に言いません。

3 米軍基地の縮小は世界的に避けられない流れ（中国との共存）

朝鮮戦争が終わって日本に不利益なことは、在韓米軍の縮小ですが、世界的に見ると海外の米軍基地は縮小しています。なぜかというと、まずは、ベトナム戦争でたくさんの方が亡くなり、サイゴンのアメリカ大使館から最後のアメリカ人がヘリで脱出するところまで追いつめられて、終わりました。アフガニスタン、シリアなど、いろいろな所に兵を送りましたが、アメリカが基地をおいて兵士を派遣したことでこじれてしまい、アメリカがにっちもさっちもいなくなって、お

金だけ使ったということが結構ありました。ここ数年間で、海外にある米軍基地は3割くらい減っています。

むしろ、米軍は、テロ対策のために、大きな基地にたくさんの兵士をストックしておいて、問題があったときに、そこからすぐ飛んでいける体制のほうがよい、どこか特定のところに貼り付けておくよりも柔軟性をもたせたほうがよい、とされています。日本の米軍基地は、そういう性格が強い。在韓米軍は、北朝鮮や中国を見ているが、日本の米軍基地は、中東に行ったり、北朝鮮をにらんだり、台湾海峡をにらんだり、どちらにも行ける軍です。

そういう日本の米軍基地に対して、昭和天皇も言っていますが、朝鮮戦争が正式に終わって緊張関係がなくなると、基地を減らしたほうがいいじゃないかと言われます。まず、言われるのは普天間基地です。去年、NHKの番組にペリー国務長官が出て、普天間基地は朝鮮半島のためにある基地で、朝鮮半島有事のときは、普天間基地に世界中から米兵が集まり、出撃していくと言っていました。その普天間基地が辺野古に移転すると言われていますが、朝鮮戦争で緊張がとけると、まず、沖縄で米軍基地撤退の声が強まります。沖縄に基地があることでかえって朝鮮半島との関係がこじれる、基地がないほうが関係がよくなるという声が強まります。

それは日本政府にとってとても恐いことです。できれば朝鮮半島でごたごたしてほしい、統一しないでほしい、それが日本の外交を牛耳っている保守エリートの考え方です。私は、それは間違いだと思います。

我々は、もっと朝鮮戦争について知って、この戦争を終わりにするために協力しなければならない。そうしないと、平和国家日本というのは看板だけになります。

ベトナム戦争のときも、たくさんの爆撃機が日本から出撃しました。砲弾も日本で作られて送られました。ナパーム弾は、東京大空襲のときに使われて、10万人が死に、東京が焼け野が原になった、ねばねばした火薬が入っていて、飛び散ってパツと燃えて、人間なんかあつという間に燃えてしまう爆弾ですが、その爆弾を何と、ベトナム戦争のときは日本で作って、日本からベトナムに送って、戦争していたのです。これは公然の秘密です。

日本の戦後の歩みについて、安部さんは、平和国家として歩んできたと言っていますが、それは嘘です。実は、米軍と協力して、あちこちで戦争を陰で行って、経済的に発展してきたということを認識しなければいけない。

憲法9条をまもるためにも、本当の平

和国家になるためにも、今度の米朝首脳会談を注意をもって見守り、これが成功するために声をあげたいと思う。例えば、日本で米朝首脳会談の場所を提供するとか、市民団体が朝鮮戦争終結のための文案をつくるとか。韓国の市民団体はそういうことをやっています。韓国には、平和のための幅広い仕事をしている市民団体がいくつもあり、みな懸命です。どうやれば北朝鮮も受け入れられる終戦宣言をつくることができるか、朝鮮戦争を終わらせるステップをふんでいけるのか、南北の交流が盛んになれば最も緊張の高い軍事境界線付近をどのように開発していこうか、など。私は、昨年11月に、南北境界線付近で行われたシンポジウムにも出ました。発言しろと言われて、観光開発がこんなに進んでいるということで、日本の記者を連れていきますと発言したら、喜んでくれました。

それが長期的には日本にとってもプラスになります。

3週間くらい前にドイツ大使館の人と話していたところ、朝鮮半島の統一に日本の人は否定的だが、わからないではないですよ、と言われました。実は、ドイツが統一するときにもイギリスやフランスの中には反対がいっぱいあったそうです。昔のような強いドイツが生まれてまた侵略してくるかもしれないと。しかし、統一されたら、経済復興や東西ドイツの交流のために、イギリスもフランスも積極的に手伝ってくれたそうです。そして

EUが生まれたわけです。

われわれは島国なので、近視眼的になり、目先のことだけ考えてしまいますが、できれば、ちょっと隣にいる人たちの努力をわかってあげて、一緒に手を携えてあげたいと思います。

◆ 君島東彦

憲法9条の観点から米朝首脳会談を見る－東アジアの分断構造から水平的ネットワークへ－

1 9条を擁護するとはどういうことか？

安倍9条改憲が日本の平和運動の中で議論になっています。いつ安倍さんが国会の中で憲法調査会を動かして改憲の提案をするかということにみんな関心をもっています。そのこと自体は良いのですが、その動きだけに目をうばわれていると一番大事なことが見えなくなります。現時点における日本の平和運動の重点は、そこではないと私は思っています。

今の国会の状況では、7月の参議院選挙まで、憲法審査会を動かして憲法改正の発議をするような状況にはおよそありません。問題は次の国会のときにどのような動きをするか、それは自民党がどれだけ勝つか負けるか選挙結果によると思います。したがって現国会での憲法発議に重点を置くのは少し違うのではないかと

と思います。むしろ東アジアでものすごい地殻変動が起きているのに、9条を擁護するために、これについて何も考えなくてよいですか、ということです。

憲法9条は前文とセットです。前文で考えているのは集団安全保障です。一国で安全保障するのではなくて集团的、普遍的に安全保障していく考え方にたちます。つまり、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼するとは国連を意味します。冷戦で国連は機能しないから日米安保に行くわけで、国連が機能していれば日米安保に行かないわけです。憲法の本来の原点はやはり二国間の軍事同盟ではなくて、もう少し普遍的な安全保障の枠組みをつくるところが憲法の原点ですから、それがなかったら9条は生きないのです。9条と安全保障の枠組みづくりはセットになっていますから、それをつくらなければいけない。国連の再建が無理であるならば、東アジアはどうするか。ヨーロッパはEUをつくるとか、あるいはOSDEといった、冷戦を克服していく、軍事同盟による解決ではなく、すべての国家がメンバーになるような枠組みをつくるといった努力がある。

9条を守りたいというのであれば、東アジアで安全保障の枠組みをつくらなければならない。その努力なしに9条はない。そのところが弱いのではないかとというのが私の意見で、日本の平和運動はそこに目がいていない。あるいはその

運動を大きくしなければならぬ。そうした意味で今東アジアで起きている地殻変動、ジグザグではあるけれども、それを私たちはどう見るかが大事なことです。

憲法9条が変わっていったのは朝鮮戦争からです。朝鮮戦争によって憲法9条は変わるのです。朝鮮戦争が起きたから再軍備させられて自衛権に行くわけです。1950年の朝鮮戦争勃発によって憲法が変わってくる。もちろん、その前から憲法を変えたいアメリカの意向・動きはありましたが、国際秩序を決定的に変えたのは朝鮮戦争からです。東アジアでは、それで冷戦が根本的な対決に向かって行くわけですし、ドイツは朝鮮戦争を見て明らかに変わった。ヨーロッパの冷戦はこれで深まっていった。1950年の朝鮮戦争の勃発は世界を変えた、世界のモードが変わった。違う世界に入っていったのです。違う世界に入っていくときに日本は独立したのです。サンフランシスコ平和条約です。つまり西側、アメリカ側に組みこまれていった。その時に全面講和というどちらの軍事同盟にも加担しないで独立したいという動きがありましたが（全面講和論）、それが力にならなかった（その理想のアイデアは今に息づいています）。それゆえに憲法9条は変わってしまった。

今、朝鮮戦争が終わるかもしれない、終わらせようという動きがあります。当然それは憲法にも影響してきます。残念

ながら今の日本の議論は、五味さんが言われているように38度線は対馬海峡に南下する、朝鮮半島は全部赤くなる、赤い中国と朝鮮半島が全部赤くなって対馬海峡が対決線になるという見方です。だから朝鮮半島の緊張緩和は日本にとってはむしろ脅威であるとの見方です。昨年6月の米朝首脳会談直後に私はソウルの学会に出席しましたが、そこで韓国の平和研究者と会いました。そこでの会話ですが、一番大事な団体・運動体の研究者と会いました。米朝首脳会談の結果、これで明らかに日本にとってプラスでしょう、憲法9条擁護にプラスになるのではないかということです。日本は逆なんです。むしろ9条改正に向かって行くのです。対馬海峡に対決線が来るという見方ですから。韓国の平和研究者たちからは日本は何をやっているのか、情けないと言われるのです。日本のリベラルや知識人たちは何をやっているのかと批判され叱咤激励されるのです。

米朝首脳会談はトップの会談ですからどうしても傍観者的になります。一市民からするとすごく遠いことです。自分とは関係がないように見えますが、日本国憲法の趣旨からするともう少し違うのです。外交はもちろん最後は政府です。最後は首脳会談が重要ですが、しかしもっと広い裾野があるものです。

ヨーロッパで冷戦を終わらせたのは、マルタでのゴルバチョフとレーガンのト

ップ会談ですが、その前提には、東西の市民社会の数十年にわたる地道で分厚い交流がありました。その基礎の上に最後のトップ会談があったのです。

アメリカで 1996 年に出版された『マルチ・トラック・ディプロマシー』という本があり、私は大好きです。その後あまり議論はされていないのですが、依然としてマルチ・トラック・ディプロマシーという考え方は間違っていないと思います。外交のトラックはたくさんあります。よくトラック 1 の外交とかトラック 2 の外交とかという言い方をします。トラックとは陸上競技場のトラックです。トラック 1 は政府の外交でトラック 2 は非政府の外交です。

この本はトラック 2 は 9 あると言っています。9 あるトラック全てで外交をやるべきと言っています。最後はもちろんトラック 1 が大事で、政府間、つまり条約の形になるわけです。条約の形になるまでの前提として裾野のところのトラックが極めて重要です。

ヨーロッパの冷戦終結のプロセスから見ると東アジアはまだ基礎のところは全然足りません。だから米朝首脳会談で成果が出ないとがっかりするのですが、それは我々の努力が足りないということなので、私はがっかりすることはないと思います。65 年間の対決をそんなに簡単に終わらせることはできません。もう少し時間がかかります。でもセットバック、後退はしていない。もう少し先までいかないといけないが止まっているという感

じで、われわれが何をやるかということがすごく大きい。

韓国の市民社会はものすごい努力をしてきました。それに比べると日本の平和運動は何をしているのか、韓国側から見た見方です。マルチ・トラック・ディプロマシーという考え方で憲法の前文を読むと、憲法前文はマルチ・トラック・ディプロマシーの考え方であることが分かります。

非暴力平和隊の出発点では、朝鮮半島の問題は視野にありました。非暴力平和隊は 2002 年に設立されましたが、2000 年からの準備段階で朝鮮半島の平和運動と交流していました。インドで開かれた設立総会にも韓国から多数の人が参加しました。私たちも非暴力平和隊の韓国と交流していました。最近切れていますが、非暴力平和隊をつくる時に朝鮮半島で何ができるかを考えたのです。結局、朝鮮半島のような国家間の軍隊の対決がひどいところでは活動の可能性は低いと考えました。現時点ではピースキーパーを派遣する状況にありませんが、長期的に 38 度線が変わっていくときに、そこにミリタリー（兵士）ではなく、シビリアンが行くことはありうると思います。非暴力平和隊としても朝鮮半島の問題は依然としてまだ検討の余地があるかなと思います。

2 「東アジア分断構造」

—白永瑞(ペク・ヨンソ)のとらえ方

「東アジア分断構造」ですが、この問題をずっと考えていて、私が一番ベースにしているのは韓国の白永瑞(ペク・ヨンソ：延世大学校文科大学史学科教授兼文科大学長)という歴史学者の考え方です。一番説得力があると思います。私は彼の考え方に依拠しています。最近、日本語で翻訳が出ました。『共生への道と核心現場—実践課題としての東アジア』(法政大学出版局：2016年)という本です。日本平和学会で彼を招聘したときの講演も含まれています。彼の考え方を要約するときの通りです。

彼は東アジア分断構造を基礎に置き、東アジアは国民国家単位で見ては駄目で、東アジア全体としてみる。東アジア全体としてまず歴史的に見る。3つの違うモードがあった。まず最初に中華帝国がある。東アジアの原点は清帝国。華夷秩序・朝貢体制がある。朝鮮半島も琉球も日本も朝貢体制の周辺にあった。次に日本帝国の時代。日清戦争のあと東アジアは日本帝国(大東亜共栄圏的秩序)になっていく。植民地支配と戦争。次に1945年以降は中国の内戦の後、アメリカの覇権国としての秩序、パックス・アメリカナとその中にいるアメリカの下請けとしての日本、それと中国側との対決の秩序。中華帝国、日本帝国、アメリカ帝国の3つの大きな対決がある。

今はパックス・アメリカナが移り変わる時期ですが、まだ次の秩序が見えて

いない。パックス・アメリカナは衰退し黄昏期にあるけれど次の秩序が見えていない過渡期にある。これが大きな分断です。

小さな分断として、東アジア全体の葛藤とか矛盾を集中的に体现する場所があります。琉球、朝鮮半島、中台関係としての台湾、この3つが小分断です。この3つで一番紛争が激しい。この小分断をどう克服するかが東アジア全体に波及する。今日は中台関係には触ませんが、沖縄、朝鮮半島の矛盾と対立を解決することが東アジア全体の平和をつくる前提です。朝鮮半島の対立を克服することは東アジアに水平的に波及する、あるいは沖縄の矛盾とか対立を克服することも東アジアに水平的に波及するという主張です。私はこの考え方が現時点では一番魅力的で、この考え方に立ちたいと思っています。

3 2018.6.12 米朝首脳会談の意味

ここで私が強調したいのは、韓国の人がいわれることですが、6月12日の米朝首脳会談の実現には3つの要素があります。

第1に、ムン・ジェイン大統領。彼は1980年代の韓国民主化運動の成果です。この韓国民主化運動があって6月12日がある。そういう意味では市民運動の結果です。6月12日はパワーポリテイクス

ではないのです。市民運動の結果なので、ムン・ジェイン大統領はパワーポリテイクスではないのです。

1980年代の韓国の市民運動は基本的に南北の平和的統一を意識してきました。韓国の民主化運動は、韓国の軍事政権を民主化すると同時に、北との関係を平和化する。韓国内の民主化と、朝鮮半島全体の平和的解決は、常にセットですから、そのアジェンダがムン・ジェイン大統領に体现されるのです。ですから6・12は韓国の民主化運動が作ったといえましょう。

第2に北朝鮮の金正恩の最高指導者就任です。彼は確かに一つの改革をやっている。

第3にトランプという非常に変わった人がアメリカの大統領に就任したことです。伝統的な軍事的思考とは少し異なった大統領。

この3つ要素がありますが、単なる政治家のパワーポリテイクスだけで動いているのではなく、韓国の民主化運動が準備したという面が重要です。

韓国と北朝鮮の軍事的対立は明らかに緊張緩和されてきています。私がフォーローする限り、軍事的対決、例えば米韓の軍事演習などは、やめたり、縮小されている。だから軍事的境界線が対馬海峡に南下したと言われるわけで、朝鮮人民軍

と韓国軍はもう仮想敵国ではなく、韓国軍の仮想敵国は日本だと言われるような状況になってきている。日本の平和運動はどう考えるのかが問われています。

第2回米朝首脳会談は長いプロセスの一つです。これまで米朝がこのように直接会談することはできなかったですが、2回も会談し、3回目の会談もあるでしょう。長いプロセスとして注目していきたいと思います。

4 「東アジアの平和」への「知的資源」

私は白永瑞(ペク・ヨンソ)の考え方に依拠して、東アジアの矛盾が集中的に表現されている、朝鮮半島の問題、沖縄の問題、そして台湾の問題、これらをどう変えていくのかということに全力を尽くすべきだと思います。そのときに私たちはどんな道具をもっているのか、何を使えるのかといったときに、もちろん日本国憲法は一つの大事な資源です。基本的に軍事力によらないで平和を創る方法が明確ですから、今すぐに完全に非軍事になりうるかどうかは別にして、長い時間のかかるプロセスではありますが、日本国憲法は日本の軍国主義を抑制するものとして意義があるし、全文にある国際協調主義はこれからますます重要になると思います。

沖縄の思想の中には魅力的なものがた

くさんあって、例えば川満信一『琉球共和社会憲法私(試)案』(1981年)は、沖縄は琉球共和社会であって国ではない。この文章は魅力的な文章ですぐ読めますから、ぜひ読んでいただきたい。アナキズムですからこれがすぐに実現するわけはありませんし、アナキズムは思想なので現実の政治とは異なりますが、魅力的な思想が示されています。これは中国語にも韓国語にも翻訳されています。徹底的な非軍事、非暴力の思想です。

ペク・ヨンソ『複合国家論』は、彼自身を含め韓国の人々が、朝鮮半島の統一の議論は簡単な話ではなくて非常に長いプロセスを経ると思います。それなりの思考実験とかロードマップを描くなど時間をかけて詳細に議論しています。

GPPAC は、2005年、国連アナン事務総長の時代から呼びかけられて、世界のNGOが対応していますが、東北アジアは特に熱心で、東北区アジアのすべての地域から毎年一回代表が集まっています。昨年は11月、最初はピョンヤンでやる予定でしたが、北朝鮮が今の時期は無理とのことで北京になりましたが、北朝鮮からも代表が送られてきました。ここでは日本国憲法についての議論もされています。

最後に東アジア共同体についてです。長期的には東アジア共同体の議論は必要だと思いますが、現状ではいきなり議論はできない。今の東アジアはナショナリ

ズムの時代ですから、日韓中全ての政治家がナショナリズムを否定できない。習近平もムン・ジェインも、親日的態度を示すことは絶対にできない。対決姿勢を示さないと政治家生命が終わってしまうので、日韓のすべての政治家は対決姿勢、ナショナリスティックな言論をせざるを得ない、そうしないと国内の政治基盤が持たない。

安倍、ムン・ジェイン、習三人ともナショナリスト。政権を維持するためにそうせざるを得ない。問題は、市民と群衆がそれにつきあわされる必要はないということ。市民は対決姿勢にのせられてはいけない。市民は、政治家の対決的な言論を超えたつながりをつくっていくことが必要です。もちろん、そのときに、過去の植民地支配と戦争の問題は意識しないといけませんが、それだけでは前に進みません。それを意識しつつどういう東アジアの秩序を構築するかです。

最後に、私は、立命館のゼミの学生を連れて、2011年から毎年上海のある大学を訪問し、学生たちと英語で討議する機会を持ってきました。テーマは毎年学生が決めます。大変有意義な学びです。一昨年は韓国と中国両方でやりました。去年は韓国の学生が3か国でやろうと言ったので、8月末に日中韓3か国でやりました。きわめて実りが大きかったです。いろいろな問題を取り上げ、プレゼンをして議論をしました。

ここではっきりしたのは日本の学生の学力不足でした。日本の学生は、英語力が劣る、過去の 20 世紀の歴史を知らない。中国は思想統制や言論規制があると思う日本人が多いと思いますが、大学中の議論はきわめて自由です。大学の先生も自由な議論をしますし、共産党の政策の批判もしています。学生も極めて批判的です。ナイーブではない。政府を信用していない。日本の学生と違うところです。批判的な面でも日本の学生は劣っています。日本の学生の実力不足があまりにも歴然としていて大きな課題として受け止めています。何とかして日韓中で同じような学力をつけられないかと思っています。

ともかくも学生間での日韓中のつながりができています。参考文献として挙げている孫歌・自永瑞・陳光興編『ポスト〈東アジア〉』（作品社、2006年）は、台湾、韓国、中国の学者の著書ですが、沖縄を含め3か国の知的批判者グループができつつあることが示されています。政府から自立した知識人のネットワークが不十分ながらできつつある。私はこういう所に東アジアの平和をつくっていく知的な力があるのではないかと思います。非暴力平和隊・日本としても、そうした動きと連携していきたいと思っています。憲法9条もその中で間違いなく生かされていきます。

【対談】

◆ 安藤：お二人はだいたい同じことを言われたと思いますが、対談ですので、お二人の違いがあればお願いします。

◆ 五味：米朝首脳会談の評価ですが、長いプロセスになるというのは私も同感です。今回結果が出なかったのは次のステップへの準備段階だと思います。ちょうどトランプさんは、自分の側近だった弁護士が、首脳会談をやっていた頃に証言をしていて、本人も記者会見で、朝の4時くらいまで見ていたと言っていました。気が気ではなかったと思います。最近の報道を見ていると、どうやら国内でゴタゴタしているうえに、中途半端な合意をすると足を引っ張られるかもしれないということで、急遽合意をやめたのではないかという見方もあります。そういう点では8割くらいは合意に近づいていたような気もするのですが。韓国の外務大臣の発言によると、朝鮮戦争の終戦宣言（朝鮮戦争をやめましょうという政治的宣言）と、お互いに連絡事務所を首都に置くということで、接近していたという話もあります。

◆ 君島：トランプ大統領は、株式市場のように、毎日毎日国民の支持率を気にしています。長期的なプランよりも、トランプを大統領に押し上げた基盤となっている人たち、きわめて保守的な支持層の人たちの支持が大事なのです。アメリカ

カの議会で、かつて自分の部下だったコーエン弁護士が、とんでもないこと（事実なのでしょうが）、トランプ大統領にとって極めてネガティブなことを言う公聴会があって、それが同時進行で進んでいて、民主党の側がトランプの外交成果を打ち消したいから、そこに設定したのかもしれないし、トランプ大統領の評価は極めて難しいと思います。アメリカの知識人と会うと100人中100人がトランプを否定します。とにかくトランプはひどい、一日も早くやめるべきだと思っています。アメリカの知識人やリベラルは、良心的な人々ですが、北朝鮮問題は成功してほしくないのです。それは近視眼的な見方で、私からすると北朝鮮問題を解決することはプラスです。しかし、アメリカのリベラルは、北朝鮮問題を解決することによってトランプが支持されて再選されることは阻止したい。だから邪魔するのです。

北朝鮮問題を除いてはほとんど支持するところがないトランプですが（米軍撤退はまた別の問題です）、そうした状況にあってトランプはたえず支持率を気にします。結局、北朝鮮と合意しなかったことによってかえって支持率は上がったのです。だからトランプとしては成功なのです。国内政治と外交がものすごく結びつくわけで、朝鮮半島問題に対するトランプ大統領のスタンスは、国内の危機を外交で打開したいので、世界秩序とか平和主義というよりも、個人的な成功や功

名心、あるいは個人的なディールを成功させたいということです。だから、トランプ大統領の関心事はわれわれとは違うのですが、しかし、われわれとしては、東アジアの平和のためにはトランプ大統領も利用すべきだと思います。

◆ 五味：君島さんが言われたように、沖縄の問題も視野に入れて一緒に考えていくということは、とても大切な視点だと思います。韓国の平和団体は、沖縄とすごく交流しています。例えば、濟州島に海軍基地ができるということで大きな反対運動が起き、韓国の警察に鎮圧されてしまったのですが、よく辺野古に行ってお互いにどうやって問題を解決するのか、自然をまもるにはどうしたらよいのか、交流していました。沖縄と韓国には共通項がたくさんあり、日本と韓国の運動は共鳴しあう部分があるのだなあと思いました。

中国・韓国の学生との交流で、日本の学生の20世紀の歴史に対する知識が圧倒的に不足していたと君島さんがおっしゃっていましたが、私も、高校で、ヒロシマの原爆の写真があって、そこから日本がどうなっているのか勉強したいと思ったら、先生から「ここから先は勉強しなくていいよ。試験に出ないから。」と言われました。

私が韓国に赴任して、飲むと、みな、その後のことを議論しているわけですよ。

近現代の話、植民地支配の話、私たち戦後世代はほとんど勉強していないのではないですか。そこをどう見るかということ、国として逃げてしまっているから、韓国や中国の人と話しても、堂々と話せません。知識がありません。大人になってからようやく本を読んで、いろいろな見方があることを知ります。一方、韓国の人たちは、植民地支配は不法であり間違いであって、日本は今も反省しろと、はっきり、100%言います。日本人は原爆の被害者だと思っているが、韓国に行って加害者だということを本当に意識させられました。アメリカのジョージタウン大学の大学院で、丸テーブルで話をしたときに、中国や韓国の学生がたくさんいるのですが、彼らは、北東アジアの平和のために何が必要かということ、日本が反省することだとじゃんじゃん言います。私は日本の首相は何回も誤っているよと言ったのですが、彼らは謝罪ではないと言います。勉強の差が圧倒的にあります。

◆ （会場からの質問）やはり謝罪は天皇を動かすしかありませんかね。

◆ 五味：韓国の中では、今の明仁天皇に対する親近感がとても強い。彼は、定例の記者会見の中で、祖先の1人は朝鮮半島から来たと言いました。それは韓国では大々的に伝えられています。私が内々に聞いた話では、彼は退任するまでに何とか韓国に行きたい、そこで戦争に

ついてのことを言いたいと言っていたのですが、天皇の外国訪問は時の政権がイエスと言わなければダメで、今の政権はもちろんイエスとは言いません。

それで、2017年9月、天皇と皇后は埼玉県の高麗（こま）神社に行きました。今から1000年以上前、朝鮮半島で滅亡した国（高句麗）の人が日本に逃げてきて、埼玉の田舎で開墾して鉄器を伝えたが、高麗神社は、その人を祭っている。天皇はそこを参拝して希望を叶えた。

ひょっとして明仁天皇は、退任したら、もっと自由に行動できるかもしれないというのは私の予感です。昭和天皇は、全国行幸しましたが、戦争に関わる所には行きませんでした。海外にも行きませんでした。明仁天皇はあえて戦争に関わる所に行っています。それは、自分の父親がそこをやってないという反省があったと思います。明仁天皇の考えが伝わればいいなと思います。

宮内庁の人から聞いた話ですが、天皇陛下は新聞を8紙読んでいて、最初に琉球新報を読むそうです。それくらい沖縄のことに関心がある。彼は、戦争被害者についていつも考えていたと思います。

◆ 安藤：われわれは何ができるかということについて、二人の対談の中でお話しいただきたい。

◆ 君島：たとえば、九条の会の学習会や講演会で今日のようなことをやってほしいのです。九条の会が東アジアの平和について議論することが9条を生かすこととなります。平和問題は国内問題ではないのです。九条の会は重要な活動をしていると思いますが、関心の幅を東アジアに広げてほしい、そうすることによって9条の理解が深まり、九条の会が強くなると思います。

◆ 五味：私は昨年千葉で九条の会に呼ばれて、今日のような話をしましたが、みなさん日本と朝鮮戦争との関わりはまったく知らなかったとおっしゃっていました。

いま9条をまもる運動は保守でないかと言われます。なぜかというと、絶対変えてはいけないと言いつけている、昔から変化がない、状況が変わっても同じことを言いつけているから。ところが、安倍さんは、戦略的なものかもしれないけど、こういう理由があって9条を変えなければいけない、自衛隊の募集ができないからとか、憲法学者が反対しているからとか、フェイクニュースに近いのだけれど、いろいろな理由を言います。くり返し言われていると、変えてもいいのではないか、どうして変えてはいけないのかと思ってしまいます。変えてはいけない理由を、いろいろな角度から、新しい視点をもって言わないと、若い人にはアピールしません。

戦争を防ぐために、日本が戦争に巻き込まれないために、9条を変えてはいけないというだけではアピールしません。危険は迫っているのではないか、中国や北朝鮮はミサイルを飛ばしてくるのではないか、そういう危険があるのになぜ9条を変えてはいけないのか、断固として対抗すべきだということが、若い人の間にかかなり浸透してしまっている。

実は、そうではなくて、例えば、フィリピンでは、米軍基地があったけれど、火山の爆発で基地が被害にあって、巨額の補修費を負担しろとアメリカから言われて、それならもう出ていってくれと言って、基地がなくなってしまいました。ところが、中国との対立で、再びアメリカ軍人の駐在を受け入れた。ただ、昔のような固定的な大々的な基地ではありません。フィリピンのドゥテルテ大統領は、中国とも仲良くやろうというので柔軟に対応しています。

有名な外交官が、敵と味方は永遠ではない、と言いました。外交上はできるだけ仲間をふやし、理解者をふやすのが鉄則です。それなのに日本の保守層は、なぜ、統一朝鮮は赤くなって中国と一緒にになって日本に攻めてくるから軍事を増強しなければいけない、という発想をするのか、とても残念です。日本は、朝鮮戦争が始まるまでは、非武装中立の国でやっていたという理想があったのに、朝鮮戦争で変質させられてしまったわけで、

われわれも多様な視点をもって、9条の価値をアピールしていかないと、今の世の中は、(護憲派と改憲派が半分半分くらいですけど)、どんどん押し込まれていってしまうのではないかという気がします。

◆ (会場質問) どうしたら韓国に対する謝罪ができるのかという問題に関して、日韓市民社会の交流の視点からどう思われますか。

◆ 君島：日韓関係もさることながら、北朝鮮との間でもまだ戦争は終わっていませんから、朝鮮半島の問題をどうするかというのは、日本として依然として終わっていない問題です。たとえば、安倍さんは1965年の日韓基本条約で終わっていると言っていますが、多くの方はそうは思っていない。韓国はそうは思っていない。国際法は進化しますから、あの時点で終わるわけではないのです。

日韓の市民社会のつながりは比較的強いものがあつたと思いますし、依然としてあると思います。しかし、今のメディアの重点がどこにあるかという問題があります。地道な市民社会の交流を続けることは依然としてテーマです。日韓は非常に近いところにありますから、対立している暇はありません。日韓の連携は、東アジアの平和をつくる基礎です。地道にやるしかありません。韓国から日本への留学生はたくさんいます。韓国から日本に来る動きは決して衰退していません

が、日本から韓国に行く動きは衰退しているかもしれません。どういうふうの日韓のつながりをさらに強めていくかが一つのテーマだと思います。

◆ 五味：そうですね。昨年、韓国から日本に来た観光客は760万人くらい、日本から韓国に行った観光客は280万人くらい。日本から韓国への観光客は、最近はコンスタントに増えています。

韓国の人たちは、表舞台では、日本が好きとか日本文化が好きとは言いづらいますが、歴史問題と観光は別だと思っている人が多い。先日、韓国観光公社の支社長と一緒に食事をしましたが、若い人は歴史問題を気にしていない、日本に行けばおもしろいし、美味しい物があるし、日本人は親切だし、と思っていると言っていました。

ところが、日本は、そうではない。歴史問題でぐずぐず言うなら行きたくない、けしからん、断交しろ、という人がけっこういる。歴史のことを勉強してこなかったことが過度の警戒心につながって、何か言われるかもしれない、何かされるかもしれない、思ってしまう。日本の方に課題があると思います。もっと同じくらいの方が行き来するようになればよいと思います。

日本政府の人に聞いた話ですけど、フランスとイギリスはとても仲が悪い時

期があり、第二次世界大戦後、若者の交流を積極的に行った。政府レベルの交流を見ると、今の日本と韓国の交流の百倍あったそうです。もっと若い人同士の交流を進めることが相互理解を深めることにつながると思います。あのときに言い合って負けたけど、日本に帰ったら勉強してみようかとか、日本の学生はそんなに悪い奴じゃないとか、社会に出てから何かあったらあいつに電話してみようか、という関係は大切です。

参与連帯は、韓国で最も力のある市民団体ですが、環境問題も教育問題もあらゆることをやっていて、シンクタンクに近い団体です。その代表の方などが結構日本に来ていて、去年も2回くらい講演を聞きました。そういう人たちにここに来てもらって話をしてもらったら、私が韓国語の通訳をします。

参与連帯は、ソウルに5階建てくらいの事務所があり、女性がたくさん働いています。1階は喫茶店になっています。ぜひ、私も連絡して、ここで話をしてくださいとお願いしてみます。みなさんがもし韓国に行くことがあったら、ぜひ事務所を訪ねていただいて、1階でみなさんとお茶でも飲んでみてください。

◆ 君島：日韓関係の克服の問題を質問されましたが、その問題を考えるときに、戦争責任とか植民地支配責任という言い方をされます（韓国との関係では植民地

支配責任です）。しかし、今の大学生にそれを言うと、私は当事者ではないと言われるます。

確かに当事者ではありません。では全然関係ないのかということそうではない。私は平和責任と言っています。2000年に長崎大学の高橋眞司さんという哲学者が提案した概念で、平和責任はすべての人が持っている責任で、その現れ方として戦争責任や植民地支配責任があります。日本人も中国人も韓国人も同様に平和責任を持っている。平和責任の中身は様々で、歴史を直視する、歴史を知る責任も当然入ってきます。私たちがもっている平和責任、平和な世界をつくる責任を果たしましょう、その一つとして歴史を知ること入ってくるでしょう、と学生にアプローチしています。

……………休憩

第2部

◆ 秋元里文（詩人・印刷会社勤務）

去年3月、君島先生を交えて「目前に迫る改憲をどう思うか」という討論会があり、そのときに、私と私の仲間が1人ずつ発表させていただき、その経緯があって、今回も声がかかりました。

安藤さんから、質問をなげかける役をやってと言われました。9条がすばらしいという割には日本のやっていることは

矛盾があると子ども時代から感じていましたが、今日、五味さんのお話を聞いて、私を感じていたことも、そういうところに原因があるのだなと思いました。

質問はいくつかあります。

ムンさん(ムン・ジェイン大統領)は、韓国の市民運動から生まれた政権だという話がありましたが、日本でのムンさんの印象は、メディアではネガティブに伝えられています。私のなかでは、ムンさんは好きなのですが、それは、町中で会った韓国の青年が、「ムンさんは軍隊の出身だから絶対に戦争はしないと思う」と言ったからです。その青年は徴兵から帰ってきた人でした。

この前、三浦瑠璃さん(国際政治学者)が新刊(『21世紀の戦争と平和—徴兵制はなぜ再び必要とされているのか—』を上梓(出版)して、ネットでたたかれました。日本は徴兵制という言葉に対するアレルギーがすごくあると思いますが、韓国はいまだに徴兵制があって、それによって市民の意識が高いという事実があるのではないかと思うのですが、どうでしょうか。

それから、政治家はナショナリズムを言わないと選挙に通らないという話がありましたが、メディアの本心はどうなのでしょうか。政府の体裁に乗ってやっているのか、視聴率を気にしてやっているのか、本が売ればよいのか、メディア

はどこまで考えてやっているのか、それに対して私たちはどうアプローチしたらよいのか、お聞きしたいです。

自分たちに何ができるのかについては、私は肩書きが詩人ですが、私たちの世代は、近代史や戦後の思想について学校では積極的には教えられなかった世代です。

私が個人的に戦争について疑問をもち学んだきっかけは、一つは、小学校の担任の先生が、最初の教え子を東京大空襲でほとんど失ってしまったというトラウマをもっていた方で、そのことを授業中によく語っていました。

もう一つは、中学高校のときに読んだ『住所と餃子』という詩がすごく心にささったからです。作者が子どものころに迷子になって、大人に自分の住所を必死に言って、あちらだから帰りなさいと言われて、坂をとぼとぼ上っていったら、李君という大好きな友だちが立っていて、走って行ったのだけれど、回りに日本人の仲間がやってきて、李君を「臭い臭い、朝鮮臭い」とはやし立てて、自分もつい、はやしたてた方の仲間に入ってしまったという子どものころの記憶があって、それを大人になった自分が恥じていて、そのことを思い出すたびに、ニンニク大盛りの餃子を頼むという詩でした。私も詩を書いているので、文学の力を信じて、そういう方面で、若い人や自分の子どもたちに伝えていきたいと思います。

◆ 五味：ムン・ジェインさんは、直接会ったことはありませんが、自伝などを読むと、お父さんお母さんは北朝鮮の生まれで、朝鮮戦争のときに九死に一生を得て、アメリカの舟で、韓国が一番南の島にある難民収用キャンプに来て、そこでムン・ジェインさんは生まれました。

お父さんは北朝鮮の役人をしていて、かなりの有力者でしたが、ムン・ジェインさん本人は、難民で貧しく、釜山の町で、練炭をリヤカーに乗せてお母さんと一緒に売ったそうです。全額学費を出してくれる大学に進学し、釜山で弁護士をして、人が住める世界にというのを自分のキャッチフレーズにしました。北朝鮮と統一したら北朝鮮に行って北朝鮮の人を救ってあげたいという希望があり、そういう強い思いで、いま韓国と北朝鮮との関係改善を行っているのは間違いないと思います。

市民運動というより弁護士としての活動が大きかったですね。軍隊では特殊部隊に入って落下傘で降りる訓練をしていたそうです。だから自分は戦争の怖さを知っている、平和の大切さも知っているということをよく言っていたそうです。

ただ、弁護士さんで、原則主義者なので、日本に対しても、普通の政治家だったら曖昧にすませたり、清濁合わせ飲むところも、通過できないところがあって、おかしなところはおかしいと口に出して

言ってしまうので、摩擦が生ずるという面はあります。

徴兵制については、韓国では、若い人は本当に嫌いで、何とか廃止してほしいというのが本音です。私は37歳で韓国に留学して学生下宿に住みましたが、学生中に1年くらい兵役にとられるときに学生下宿で送別会をやるのですが、兵隊に行っても楽しいなんて人は誰もいないですよ。何でこんな国になったのだと、飲むと荒れてみんなに食ってかかったり、俺の青春をかえせ、俺は逃げ出すとか、荒れて荒れて大変です。恋人がいても、だいたい別れてしまうそうです。

南北首脳会談があるたびに、インターネットの検索語の中で徴兵という言葉がトップにきます。若い人は、自分はいから徴兵になるけれど、何ヶ月だろう、短くなるかもしれない、ひょっとしてなくなるかもしれないと期待するのです。

メディアの話は、私が話せるかどうか分かりませんが、韓国や中国に批判的なメディアの友だちもたくさんいます。産経新聞の人は、ビジネスでやっているのだと言います。先日、ある会合で、産経新聞をやめた人と会いました。産経新聞は、5、6年前から別刷りで韓国のエンタメ特集の新聞をつくっていて、彼はその編集長をやっていたのですが、なぜやめたかという、あまりに韓国を批判する記事が多いので嫌になったとのこと

でした。同じ新聞でもそういう人がいるのです。僕の友だちでも、仕方なく書いている、上の人が喜ぶからという人もいます。僕は、韓国に近寄った記事を書こうとしているのですが、ときたま韓国を批判する記事を書きたいな、そうすれば批判が来ないからと思うことがあります。韓国のことを理解しようと一言書いただけで、東京新聞を読んでいないのに、大阪や九州から「けしからん、お前のところはどういう思想でやっているんだ」という電話がいっぱいかかってきます。

日本の中でも最近、韓国文学に対するブームが起きています。『82年生まれのキム・ジョン』という本が韓国でベストセラーになり、翻訳されて筑摩書房から出ています。韓国の女性がいかに虐げられて、子育てを1人で背負っているかという小説です。

日本と韓国の人は世界で一番感性が共通すると思います。取材現場で最初に仲良くなるのは韓国の記者です。彼らも締めきりに追われているし、同じような角度で記事を書くし、関心も同じです。

◆ 秋元：私は児童文学の方にも籍を置いているのですが、児童文学では、日本で売れた小説や絵本はすぐに韓国語訳や中国語訳が出ます。

◆ 五味：韓国の本屋さんに行くと、日本人の作家のコーナーがあって、僕も知

らない人が大々的に出ています。ノウハウ本やセルフケア本はとても人気があります。

◆ 君島：徴兵姓に関して2つ連想があります。

一つは、韓国の男性（徴兵に行った男性）は日本をどう見ているかということです。韓国の軍事独裁政権があったから日本国憲法9条が守られたという関係があると思います。冷戦の中で、軍事的対決の最前線は38度線にありました。北の脅威に対して、韓国の若者が兵隊に行ったから、日本は平和だったということです。韓国の若者はそう思っていますが、日本の若者はそれに気づいていますかということです。徴兵で苦勞した韓国の若者が日本に来て、日本の脳天気な若者を見て、いろいろ意見があるわけです。

二つ目は、秋元さんは、韓国は徴兵制があるから自分の問題として捉えられるのではないかとおっしゃいましたが、それで連想するのはアメリカです。アメリカは、ベトナム戦争のときは徴兵制で、今は徴兵制ではありませんが、戦争に行った人たち（退役軍人の人たち）がアメリカの平和運動の中心にいます。それは、戦争に行った人たちが、アメリカが、ベトナム戦争やイラク戦争で、どれくらいひどいことをしたかを知っているからです。

ベテランズ・フォア・ピース（VFP）という運動体があります。日本にもベテランズ・フォア・ピースの日本版があり、私もそこから学ぶところが多いです。彼らの平和運動は、被害ではなく、加害です。徹底した加害責任に基づく平和運動です。マイノリティの運動ではありますが、その強さを感じます。日本は、自衛隊は戦争を実践していませんから、それはそれでよいことなのですが……。

◆ 会場発言：私は、この近くの西片町教会で九条の会をやっています。うちの教会は、他の教会とはちがいで、太平洋戦争が終わってだいぶたってからですが、牧師が、自分たちが政府に加担してアジアの民衆に迷惑をかけたということで、戦争責任告白というものをだし、国内でもアジアでも発表しました。その牧師が、この教会では、アメリカを見るのではなく、アジアに目を向けてほしいとおっしゃって、1975年に韓国の教会と姉妹関係を結び、それ以来各年ごとの交流を今も続けています。

私は第2回目のソウルでの交流に始めて参加しましたが、そのときは、韓国の人たちは本当におっかない顔をしていました。特に年寄りには、日本は敵だという顔をしていました。若い人たちはわりと好意的でしたが、それに対して、おそらく「お前たちはおべっかをつかっている」というようなことを言って、通訳ができなかったくらいです。ところが、今はとても仲良くなりました。初めの頃は、年

寄りには、申し訳ありませんでしたと誤り続けていましたが、途中からは、そんなこといつまでも言わなくていいですよと言われるようになりました。向こうでも歓迎してくれますし、すごくよい雰囲気になっています。ソウルでは、同じテーマで話し合った後に、興味あるところに連れていってくれます。光州事件で被害にあった学生たちの墓地、38度線付近にある施設にも連れていってくれました。

韓国の牧師さんは、説教の中で、皆でろうそくデモに参加したことなどを言います。しかし、日本の牧師さんは、政教分離などと言って、教会で政治のことは言うなという暗黙の了解があるみたいです。

◆ 前田：ヘイトスピーチをしてレイシズムを煽っている勢力、その人たちが支持する自民党や安倍政権との関係、それと勝共連合（統一教会）との関係があったら教えてください。

◆ 五味：統一教会は韓国に端を発している団体だと思いますが、韓国の田舎に行くと、日本人の女性がたくさん嫁いでいて、そういう宗教団体の影響を受けた人が結構いるという話は聞きました。それとヘイトスピーチとの関係はよくわかりません。

自民党の政治家の中にも在日の人や韓国系の商工人の支援を受けている人はた

くさんいて、そういう人は比較的そういう発言はしません。都会から出ている浮動層をバックにした若い人は、比較的そういうことを言ったり書いたりする傾向がありますが、深い思想があるわけではなく、流行だから言ってみようということだと思えます。

ネット上のヘイトスピーチを分析すると、韓国や中国だけをターゲットにしているわけではなく、お金があるのに社会保障を受けているとか、弱者を装いながら世間のおいしい汁を吸っていると言って、みんなをターゲットにしています。流行現象だと思えます。

安倍首相は山口出身で、山口には在日の人がたくさんいて、その人たちの力を得て当選しているわけです。安倍さんの本を読むと、小さい頃には韓国語をしゃべっていたというシーンがあり、韓国には親近感をもっていたはずですが。韓国語では友だちのことをチングといい、安倍さんの地元では今でも、友だち（親友）のことをチングというそうです。タバコもタムベというそうです。

安倍さんは、最初は韓国に親近感を持っていたのですが、なかなかうまくいかないので、こっち（反韓国）の方が票を得られると思って、そっちにいったのでしょう。自分の身上というより、自分がやりたいことに向けてしゃべっているということだと思えます。

◆ 会場からの質問：あるシンポジウムで、朝鮮国連軍は日本の責任において解決すべだといわれた言葉が胸に突き刺さって離れないのですが、日本の植民地支配責任との関連でどう思われますか。

◆ 五味：1910年から朝鮮は日本の植民地になり、日本が戦争に負けて、アメリカ軍が南に入り、ソ連軍が北に入り、2つの軍が信託統治をして、将来的には統一しようということでした。しかし、当時は共産勢力に勢いがあり、アメリカは危機感があったので、南（韓国）だけ先に独立させました。韓国内では反対運動が起きました。

この分断について、あるとき在日に人の前で、日本の植民地支配があったから分断されたということ言ったら、みんなに怒られました。敗北主義だ、そういうことを言っているから南北は統一できなかったのだと言われました。プライドがあるのだと思えます。何でもかんでも日本の植民地支配が原因だと言っているのは進歩しないということだと思えます。現実的には、日本の植民地支配がなければ分断もなかったと思えます。

分断された後に、どちらが正当かという争いがおきました。北朝鮮の金日成(キム・イルソン)は、自分は抗日戦争をしていた歴史があり、韓国の人たちはアメリカとくっついただけだから、自分の方が正当な政府だと思っていて、今のチャンスに（独立して間もない時期に）戦争

を起こせば、韓国の人たちは自分の政府についてくると思って、無謀にも38度線から攻め込みました。しかし、誰もついてきませんでした。みんな釜山の方に逃げてしまった。血で血を洗う戦争をくり返して、分断はますます固定してしまいました。

当時アメリカは国連で圧倒的力を持っていて（共産圏の国は国連に入っていなかった）、動議を出せば全部通ってしまうので、北朝鮮は侵略軍だと決めつけて、国連軍をつくり、朝鮮戦争をたたかうことになりました。日本の中に朝鮮国連軍司令部をつくり、そこからアメリカ軍と韓国軍に指令を出して、北朝鮮軍・中国軍とたたかったのです。日本には朝鮮国連軍の本部があり、後方支援基地が7つあり、そこから兵士や軍事物資が送られました。

朝鮮国連軍はまだ残っていて休戦状態だという現状をふまえるならば、その本部が置かれていた日本は、その現状に責任感をもって、それを解消するために自主的に努力すべきだということを、シンポジウムで言われたのだと思います。そういうことを言う人はいらっしゃいます。私もそれに近い考えです。日本だけの平和を言っているよりも、隣の国が安定することこそが日本の平和であると発想を転換しなければいけません。そうでないと韓国の中でも日本の憲法をまもろうという運動に対するシンパシーが広がら

せん。

◆ 会場からの質問：憲法前文を読む人がどれだけいるのか、平和責任をどのように自覚してもらうのか、追体験してもらう一つの方法は、映画、ドラマ、写真、音楽だと思います。私自身も本郷の角で、憲法9条のビラ配りをしてみましたが、30分月1回やって、受けとる方はほとんどいない。横断幕を広げてマイクでやっても、それに対してもまったく無関心。9条のマークをついたシールを配っても受けとらない。私なりに、どうしたらよいかと工夫してみました。パネルをつくって、わだつみの会のパネルや沖縄戦の写真を展示し、ジョンレノンのイマジンや沖縄の島唄を流したら、チラッと見てくれたり、関心をもってくれたりして、私の予想以上にビラを受けとってくれました。何か工夫すれば9条に対する関心が広がるのではないかと思います。アドバイスをお願いします。

◆ 君島：おっしゃることはよくわかります。私は大学生と毎日のように接しているので、今の大学生の世代がどのような感覚をもっているか、どのような関心をもっているかは、少しはわかるつもりです。彼らは、安倍さんの言っていることのほうがすんなり入ってきます。9条を変えないなら、変えない理由を説明してくれということ。リベラル派知識人は、数のうえではマイノリティですが、世論形成におけるインパクトは数の問題

だけではありません。どのようにして今日のような話を日本の多数派に理解してもらうかということは、私は意識しているつもりですが、多数派に理解できる言葉でしゃべらなければいけないということが一つです。そういう意味で私は9条はあまり前面には出しません。

大学生の世代の関心や経験を前提にどう理解してもらうかですが、映画、ドラマ、音楽、映像はまちがいなく有効です。

私がいま関心をもっているのは、東アジアのポップカルチャー(大衆文化)です。Jポップ、Kポップです。あるいは台湾、韓国、日本の人たちで結成されたツワイス(Twice)という女性グループがあります。東アジアのポップカルチャーは共有されています。若い世代は、中国、韓国、日本、台湾で同じ音楽を聴いています。

◆ 秋元：中学生の娘はツワイスが大好きです。

◆ 前田：女子高生の一番行きたい外国は韓国だそうです。アンケートで出ています。

◆ 君島：B T S (防弾少年団)ですか。

◆ 前田：そうですね。ファッションとかメイクで日本の女子高生にはかなり浸透しています。

◆ 君島：ティーンエイジャーは東アジアの一つの共通のカルチャーを生きています。最近、ある論文は、東アジアのポ

ップカルチャーは東アジア人というアイデンティティをつくれるか、という問をたてていて、このへんの研究は最近始まっていて、今のところ、答えはネガティブです。つukれない、です。同じ音楽を聴いているのに、政治の話をするとう全部違うのです。たとえば、教室の中で、中国の留学生、韓国の留学生、日本人の学生が、同じ音楽が好きで聴いているのに、政治の話になると対立します。簡単には共通理解にはいきません。ただ、ポップカルチャーはひとつの入り口であって、今のところまだそこから過去の対立や問題を克服するところに至っていません。しかし、今の大学生の世代にアプローチしていくか、説得していくにあたって、芸術や音楽、映像といった非言語的ものをどう取り入れていくのは、大テーマです。

もちろん時代が違うので、われわれが常識と思っていることは、今のティーンエイジャーにとっては常識ではないので、自分の常識で計ってはいけないと思います。今のティーンエイジャーをよく知って、彼ら彼女らの感覚とか考え方をベースにして、どう考えていくかというのが課題だと思います。

◆ 秋元：長女が大学2回生で、中国人留学生と一緒にお祭りに行ったり、ゆかたの着付けを教えて、ゆかたを着て出かけたたり、家に行って四川の出身なのでものすごく辛い鍋を食べさせられてと言っ

ています。そのような交流はしていますが、政治の話はあえてしない、私はそんなに日本に帰属意識がないと言っています。むしろ、国籍にこだわりすぎではないかという感じをもっています。

前回来てもらった桐山君（26歳、男性、システムエンジニア）に、君島先生のレジメを送って感想を聞いたところ、次のような返事がきました。

君島さんの意見には基本的には同意しています。もちろん歴史的に見れば東アジアには分断線があるかもしれませんが、今の若い世代には、この分断線を特に気にしていない人も多いと思います。そのくらいに社会の変動が早いことの証拠かもしれません。生活にあふれた問題や楽しみを通じて、今後のアジアの未来をたくましくつくっていける人がふえれば、必ずよい結果につながると思います。大手メディアも目線がずれているだけだと思います。別に自分たちを礼賛するつもりはないですが、社会はもっとドラスティックに変わるかなと思います。問題は、社会の変化についていけない古びた政治・イデオロギーだと思います。政治や社会がなんやかんや言っても、時代をつくるのは若い世代で、そういう人々が昔の世代の教訓をどれだけくみ取れるかだと思います。自分としては何とか世代間のパイプはつなぎたいです。

彼は、今年の秋から中国に留学に行き

ます。将来は政党をつくりたいと言っています。

◆ 小笠原：朝鮮半島の統一に対して中国はどのように考えているか、五味さんに伺いたい。

◆ 五味：中国は、公式には、南北の統一を支持すると言っています。基本的には、自分たちの影響下において統一するのなら反対しないということでしょう。アメリカの影響下で統一されて、アメリカの基地が、北朝鮮と中国の国境くらいに上がってくると、そこにミサイルを置くと北京まで200キロくらいで届くらしいので、それは嫌だということです。だからどういう方向に行くのか慎重に見ていると思いますが、基本的には、北朝鮮のバックにいて北朝鮮を支持し、朝鮮半島の北と南のバランスをとりながら、和解の動きが進んでいけばよいと思っています。

北朝鮮の核兵器は中国との国境付近にもたくさんありますから、中国にとっても北朝鮮の核はよい存在ではありません。北朝鮮が核実験をやると、国境付近に大きな地震が起きて、家にヒビが入ったりして、住んでいる人は情緒不安定になります。

また、北朝鮮が崩壊して何十万人もの難民が東北地方におしよせると、東北地方はそれだけでなく中国の五十いくつあ

る省のなかで最も開発の遅れた地域ですから、そこに難民がおしよせるとそれだけでも大変です。安定的に管理しながら、少しずつ少しずつ南北の和解を進めて、できれば自分たちの管理が及ぶ範囲で統一させていきたいと思っています。

一方、アメリカは、海外に基地をおいてたくさんの兵士をおくのは非効率的だし、経済にもよくないという考えが主流になってきていて、できれば在韓米軍は減らしたいと思っています。

そういう大きな2つの流れが、南北の和解を後押ししています。それぞれ思惑はありますが、65年間で始めてきたチャンスですから、このチャンスを後押ししなければいけないと思いますし、成功してほしいと思います。けっして隣の国の成功が日本の不幸だとは考えない方がよいし、日本が平和国家として生きていくためには周辺国が安定することがプラスになるわけですし、そういう視点ももちたいと思います。

◆ 会場からの質問：南北朝鮮の連合をつくることを書いた本を読みましたが、現実はその方向に行っていないように思いますがどうですか。

◆ 五味：今の南北は経済レベルが44対1と言われるほど違います。東西ドイツが一緒になったときには3対1でした

し、チェックポイントもあって行き来がありました。しかし、南北朝鮮は文化が全く違うし、経済も違います。統一したら韓国の株式市場は大暴落します。韓国の若者は海外に移住します。そのくらい大きなインパクトがあるので、たぶん緩やかな連合体をつくって、やり方はいっぱいありますが、いきなり合併することはほぼ不可能です。10年20年と長い年月をかけて異質さを縮めていかないと無理です。緩やかな連合体で進めるしかないというのは今では定説です。突然北朝鮮が崩壊する場合は別ですがこれは絶対避けたいですね。できるだけ人の行き来をし、交流して、北朝鮮の人に来て働いてもらって、ということからと理解しています。

◆ 会場からの質問：北朝鮮では今でも核兵器開発を継続していると新聞で読みましたが。

◆ 五味：衛星写真でしか把握できない現状です。北朝鮮は意図的にしていると話もあります。やっているみたいに見えるということもあります。本当のことは分かりません。アメリカはどんな国でも現地に協力者がいて核開発をしていると当然土を採ってくるそうです。そうして放射量を測定して確認するそうです。北朝鮮ではそれができないので確実なことは分かりません。衛星写真からしか知れないのです。



討論集会会場

